

# 結 果 の 概 要

## 1 出生数は減少

出生数は91万8400人で、前年の94万6146人より2万7746人減少し、出生率（人口千対）は7.4で前年の7.6より低下した。合計特殊出生率は1.42で前年の1.43より低下した。（第1表）

母の年齢（5歳階級）別にみると、出生数は15～44歳の各階級では前年より減少したが、45～49歳及び50歳以上では増加した。合計特殊出生率の内訳は39歳以下の各階級では前年より低下したが、40～44歳及び45～49歳の階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第4表（1）、第5表（1））

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率ともに、すべての出生順位で前年より減少・低下した。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は15～19歳及び25～44歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、45～49歳の階級ではいずれの出生順位も前年より増加した。合計特殊出生率は20～24歳の第3子以上、25～34歳の第1子、35～44歳の第2子、第3子以上及び45～49歳の第2子で前年より上昇した。（第4表（3）、第5表（3））

## 2 死亡数は増加

死亡数は136万2470人で、前年の134万567人より2万1903人増加し、死亡率（人口千対）は11.0で前年の10.8より上昇した（第1表）。

死因別にみると、悪性新生物＜腫瘍＞の死亡数は37万3584人（死亡総数に占める割合は27.4%）、死亡率（人口10万対）は300.7であり、前年と同様死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患、昨年第4位であった老衰が第3位となった。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男4.6、女2.5で、男は前年の4.7より低下したが、女は前年と同率となった（第1表）。

## 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△44万4070人で、前年の△39万4421人より4万9649人減少し、自然増減率（人口千対）は△3.6で前年の△3.2より低下し、数・率ともに12年連続で減少・低下した（第1表、第2表－1、第2表－2）。

## 4 死産数は減少

死産数は1万9614胎で、前年の2万364胎より750胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は20.9で、前年の21.1より低下した（第1表）。

## 5 婚姻件数は減少

婚姻件数は58万6481組で、前年の60万6952組より2万471組減少し、婚姻率（人口千対）は4.7で前年の4.9より低下した（第1表）。

## 6 離婚件数は減少

離婚件数は20万8333組で、前年の21万2296組より3963組減少し、離婚率（人口千対）は1.68で前年の1.70より低下した（第1表）。